

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年11月13日

【四半期会計期間】 第95期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

【会社名】 株式会社中村屋

【英訳名】 NAKAMURAYA CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 鈴木 達也

【本店の所在の場所】 東京都新宿区新宿三丁目26番13号

【電話番号】 03(3352)6161(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員 二本松 壽

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区笹塚一丁目50番9号

【電話番号】 03(5454)7125(ダイヤルイン)

【事務連絡者氏名】 取締役兼常務執行役員 二本松 壽

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第94期 第2四半期 連結累計期間	第95期 第2四半期 連結累計期間	第94期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	15,486,152	15,938,667	41,591,551
経常利益又は経常損失 () (千円)	1,199,152	1,074,795	935,405
親会社株主に帰属する 当期純利益又は親会社株主に 帰属する四半期純損失 () (千円)	439,779	775,998	711,358
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	275,660	788,657	1,654,242
純資産額 (千円)	21,446,747	22,232,012	23,585,476
総資産額 (千円)	40,514,612	41,006,386	39,767,172
1株当たり当期純利益金額又は 四半期純損失金額 () (円)	7.45	13.12	12.04
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	52.94	54.22	59.31
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,763,055	1,705,767	1,331,717
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	1,165,476	78,413	3,144,662
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	2,560,718	1,972,233	1,809,566
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,115,738	1,690,763	1,505,002

回次	第94期 第2四半期 連結会計期間	第95期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり 四半期純損失金額 () (円)	5.23	5.97

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
5. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「当期純利益又は四半期純損失」を「親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失」としております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における菓子・食品業界は、原材料価格の高騰や企業間競争の激化、食料品の相次ぐ値上げによる消費マインドの足踏み傾向など、厳しい状況が続きました。

このような環境の下、当中村屋グループは「中期経営計画2015-2017」に掲げた中期ビジョン「事業構造改革による現状打破を実行し、収益体質の強化と成長軌道への転換を図る」を実現するため、『選択と集中』の視点から、成長マーケットへの積極展開と経営効率の向上を推進しました。

以上のような経過の中、当第2四半期連結売上高は、15,938,667千円 前年同期に対し452,515千円、2.9%の増収となりました。

利益面では、ローコスト施策を積極的に推進した結果、営業損失は1,113,761千円 前年同期に対し152,896千円、経常損失は1,074,795千円 前年同期に対し124,358千円とそれぞれ改善しました。親会社株主に帰属する四半期純損失は繰延税金資産の影響から775,998千円 前年同期に対し336,219千円の減益となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

菓子事業

菓子事業では、新発売や改良発売に積極的に取り組みました。

バックデザート類では、ギフト商品を新・改良発売することで品揃えを強化しました。

贈答菓子類では、ナッツや果実を練り込んだ餡をふんわり食感のダコワーズ生地とサクサクのパイ生地ですてんで焼き上げた「トロワーズぱい」を新発売したほか、主力贈答品の品質改良を行いました。なお、昨今の原材料、包装資材等の値上がりの吸収が困難となり、9月より一部商品の売価改定を実施しました。

土産販路では、「東京ショコラトリー」ブランドとして新たな常設売店を獲得しました。また、羽田空港においては「新宿カリー煎餅」の催事を展開しました。

中華まんじゅう類では、主力商品の改良を行い、商品力の一層の強化を図りました。百貨店・駅ビル販路では、原材料にこだわり、旨み、風味を向上させた「天成肉饅」「天成餡饅」を発売しました。コンビニエンスストア販路では、設備や工程を見直し、より肉の食感を楽しめるよう仕立てた「ジューシー肉まん」などを発売しました。

新宿中村屋ビル内の「スイーツ&デリカBonna(ボンナ)新宿中村屋」では、店内製造の菓子、カリーパンや総菜など、出来立ての商品を中心に提供しました。

また、黒糖菓子専門店「九六一八(くろいちや)」、月餅専門店「円果天(えんかてん)」、和風デザート専門店「ISSUI(イッスイ)」では、新・改良品や季節限定商品を発売し、帰省・手土産の品揃え強化に努めました。

以上のような営業活動を行いました。菓子事業全体の売上高は9,763,703千円 前年同期に対し6,549千円、0.1%の減収となり、営業損益は584,101千円の損失 前年同期に対し24,821千円の減益となりました。

食品事業

業務用食品では、ファミリーレストラン、カフェ、ファストフード、給食などに向けて、調理用ソース、スープのメニュー提案を積極的に実施しました。また、新規取引先獲得に向けて、カレーの導入に取り組みました。

市販食品では、4月にレトルトカレー発売以来初となる価格改定を実施しましたが、大きな影響なく推移しました。また、近年好調の麻婆豆腐用ソースも順調に推移しました。6月には、話題の中華ソース「怪味ソース」を当社ならではの調理技術でアレンジし、発売しました。

以上のような営業活動により、食品事業全体の売上高は3,483,533千円 前年同期に対し6,226千円、0.2%の減収となりましたが、営業利益は199,773千円 前年同期に対し1,819千円の増益となりました。

飲食事業

「オリーブハウス」「インドカリーの店」では、既存商品の磨き上げや新商品開発に取り組み、グランドメニュー改訂や季節フェアメニューの提案をするとともに、心のこもったサービスを通じて、お客様満足の向上を図りました。また、6月にオリーブハウス「梅田店」を、9月に「新宿高島屋店」「川越アトレ店」をリニューアルオープンしました。

新宿中村屋ビル地下2階「レストラン&カフェ Manna(マンナ)新宿中村屋」では純印度式カリーを中心とした伝統のメニューを、8階「レストランGranna(グランナ)新宿中村屋」では“中村屋流”多国籍料理を提供しました。

以上のような営業活動により、飲食事業全体の売上高は1,585,832千円 前年同期に対し196,541千円、14.2%の増収となり、営業損益は40,955千円の損失、前年同期に対し36,529千円の改善となりました。

不動産賃貸事業

不動産賃貸事業では、笹塚NAビルにおいて、快適なオフィスビル空間を提供することで満室稼働を維持しました。また、昨年10月に開業した商業テナントビル「新宿中村屋ビル」では、10フロアのうち7フロアを賃貸事業として運営しました。

以上の結果、売上高は668,858千円 前年同期に対し245,117千円、57.9%の増収となり、営業利益は250,461千円 前年同期に対しては63,396千円の増益となりました。

その他の事業

スポーツ事業では、会員制スポーツクラブ「NAスポーツクラブA-1」において、健康への寄与を追求し、顧客ニーズに応じた多様なメニューの開発・導入を行いました。また、6月には小型フィットネスジム「NAスポーツクラブA-1EXPRESS」を西永福に開店させるなど、積極的な事業展開に取り組みました。

以上の結果、売上高は436,741千円 前年同期に対し23,631千円、5.7%の増収となり、営業利益は35,463千円 前年同期に対しては14,186千円の増益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ185,760千円増加し、1,690,763千円となりました。

区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、1,705,767千円の支出(前年同期は1,763,055円の支出)となりました。これは主に、減価償却費の計上524,750千円等があったものの、たな卸資産の増加による支出1,294,665千円、税金等調整前四半期純損失1,102,060千円等があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、78,413千円の支出(前年同期は1,165,476千円の支出)となりました。これは主に、定期預金の払戻による収入255,059千円等があったものの、有形固定資産の取得による支出315,573千円等があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、1,972,233千円の収入(前年同期は2,560,718千円の収入)となりました。これは主に、配当金の支払額590,281千円等があったものの、短期借入金の純増額による収入2,600,000千円等があったことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

会社の支配に関する基本方針の内容

上場会社である当社の株式は、株式市場を通じて多数の株主、投資家の皆様による自由な取引が認められているものであり、当社の株式に対する大規模な買付行為や買付提案がなされた場合においても、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。

しかしながら、わが国の資本市場における株式の大規模な買付行為や買付提案の中には、その目的等からみて企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主の皆様が株式の売却を事実上強要する恐れがあるもの、対象会社の取締役会や株主の皆様が買付の条件について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買付者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買付者との交渉を必要とするもの等、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社は、上記の例を含め、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を毀損する恐れのある大規模な買付等を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者としては適切でないと考えております。

基本方針の実現に資する取組みの概要

・当社グループは、持続的に成長し、ステークホルダーへ利益の還元を図るため、「中期経営計画2015 - 2017」を策定し、「事業構造改革による現状打破を実行し、収益体質の強化と成長軌道への転換を図る」を中期ビジョンに掲げ、5つの中期経営方針「顧客視点の経営」「強みへの集中」「品質保証の徹底」「生産性の向上」「人材の育成」に基づいた戦略・施策に取り組みます。

・「『選択と集中』の徹底と実行」を基本とし、各事業の強みを活かしたビジネスに経営資源の集中的な配分を行うとともに、不採算ビジネスの整理を進め、その資源を成長可能性の高いビジネスへとシフトさせることで収益力の強化に取り組みます。

・堅調に推移するコンビニエンスストア販路や今後の伸びが期待できる健康食品市場など、成長マーケットに向けて当社の企画開発力・技術力・営業力を最大限に発揮し、スピード感をもって働きかけることで新たな市場や顧客の拡大を図ります。

・AIB国際検査統合基準に基づく食品安全管理システムの強化や事業継続計画（BCP）の実効性の向上など、企業基盤の安定化に努めるとともに「食」に携わる企業として食育活動や食に関する支援などの社会貢献活動に取り組みます。

・「中村屋サロン美術館」から展開する芸術・文化支援活動といった中村屋ならではの活動を推進させることで、企業としての社会的責任を遂行します。

会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、当初平成19年12月25日開催の取締役会において、「当社株式の大規模買付行為に関する対応策（以下「現プラン」といいます）」を決議し、直近では平成26年6月27日開催の当社第93回定時株主総会において株主の皆様にご承認いただき継続しております。

その概要は以下のとおりです。

イ．当社株式の大規模買付行為等

現プランの対象となる当社株式の買付とは、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為をいい、かかる買付行為を行う者を大規模買付者といいます。

ロ．大規模買付ルール

大規模買付ルールとは、事前に大規模買付者が取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、取締役会による一定の評価期間が経過した後に大規模買付行為を開始するというものです。

ハ．大規模買付行為がなされた場合の対応

大規模買付者が大規模買付ルールを順守した場合には、当社取締役会は、仮に当該大規模買付行為に反対であったとしても、当該買付提案についての反対意見を表明したり、代替案を提示するなど、株主の皆様を説得するに留め、原則として当該大規模買付行為に対する対抗措置は講じません。

ただし、大規模買付ルールを順守しない場合や、順守されている場合であっても、当該大規模買付行為が、当社に回復し難い損害をもたらすなど、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうと当社取締役会が判断する場合には、対抗措置の発動を決定することがあります。

ニ．対抗措置の合理性及び公正性を担保するための制度及び手続き

大規模買付ルールが順守されたか否か、あるいは大規模買付ルールが順守された場合でも、大規模買付行為が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうものであることを理由として対抗措置を講ずるか否かについては、当社取締役会が最終的な判断を行いますが、現プランを適正に運用し、取締役会によって恣意的な判断がなされることを防止し、その判断の客観性・合理性を担保するため、独立委員会を設置いたします。

当社取締役会は、対抗措置の発動に先立ち、独立委員会に対し対抗措置の発動の是非について諮問し、独立委員会は、当社の企業価値ひいては株主共同の利益の向上の観点から大規模買付行為について慎重に評価・検討のうえで、当社取締役会に対し対抗措置を発動することができる状態にあるか否かについての勧告を行うものとします。

ホ．現プランの有効期間等

現プランの有効期限は平成29年6月30日までに開催予定の当社第96回定時株主総会終結の時までとします。

ただし、現プランは、当社株主総会において現プランを廃止する旨の決議が行われた場合、当社取締役会により現プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、その時点で廃止されるものとします。

現プランの合理性の概要

会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組みは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を向上させるための施策であり、まさに会社の支配に関する基本方針に沿うものであります。

また、現プランは、「買収防衛策に関する指針の要件を充足していること」「株主共同の利益の確保・向上の目的をもって導入されていること」「株主意思を反映するものであること」「独立性の高い社外者の判断を重視するものであること」「デッドハンド型やスローハンド型買収防衛策ではないこと」等、会社の支配に関する基本方針に沿い、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に合致し、当社の会社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

現プランの詳細につきましては、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.nakamuraya.co.jp/>) に掲載しております。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は188,782千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因に重要な変更及び新たに生じた事項はありません。

(6) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは、創業者相馬愛蔵の優れた商業経営哲学（商業の社会的役割あるいは本質に関する基本的な考え方）を現在に受け継ぎ、新たな歴史を築いて行くために、当社グループの存在価値を、創業以来変わらず続けている「お客様に満足していただける価値ある商品とサービスを創造し提供していくこと」と考えております。

経営の基本といたしましては、経営理念である「新たな価値を創造し、健康で豊かな生活の実現に貢献する」を実現するために、「事業構造改革による現状打破を実行し、収益体質の強化と成長軌道への転換を図る」との中期ビジョンの下、「実行」「改革」「創造」に従業員一人ひとりが仕事を進める上での行動指針としております。昨今の当社を取り巻く経営環境、市場環境、消費行動などの大きな環境変化をチャンスととらえ、創造志向で持続的成長を図るとともに、構造改革を推進し、高効率経営の実現を目指します。

また、環境負荷の低減にも努めるなど社会的責任を遂行し、当社グループをご愛顧頂いているステークホルダーであるお客様、お取引先様、株主様、地域社会からより一層のご評価とご支持を頂ける企業になるべく、日々の仕事を通じて新たな価値を創造し、提供していくための努力を重ねてまいります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	199,044,000
計	199,044,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成27年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	59,762,055	59,762,055	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
計	59,762,055	59,762,055		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年9月30日	-	59,762,055	-	7,469,402	-	6,379,704

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
中村屋取引先持株会	東京都渋谷区笹塚一丁目50番9号	5,459	9.13
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町一丁目5番5号	2,909	4.87
三井不動産株式会社	東京都中央区日本橋室町二丁目1番1号	1,800	3.01
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	1,562	2.61
日本製粉株式会社	東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目27番5号	1,301	2.18
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7番1号	1,151	1.93
日東富士製粉株式会社	東京都中央区新川一丁目3番17号	1,110	1.86
豊通食料株式会社	東京都港区港南二丁目3番13号	1,100	1.84
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町二丁目2番1号	1,000	1.67
みずほ信託銀行株式会社	東京都中央区八重洲一丁目2番1号	957	1.60
計		18,350	30.70

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 110,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 59,079,000	59,079	
単元未満株式	普通株式 573,055		
発行済株式総数	59,762,055		
総株主の議決権		59,079	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が3,000株(議決権3個)含まれております。
2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式54株が含まれております。
3 従業員持株会信託口所有の株式462,000株(議決権の数462個)につきましては、「完全議決権株式(その他)」欄に含めて表示しております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社中村屋	東京都新宿区 新宿三丁目26番13号	110,000		110,000	0.18
計		110,000		110,000	0.18

- (注) 従業員持株会信託口所有の株式462,000株につきましては、上記の自己株式等に含まれておりませんが、会計処理上は当社と一体としていることから、連結貸借対照表等においては自己株式として処理しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、至誠清新監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、従来、当社が監査証明を受けている清新監査法人は、平成27年10月1日付で至誠監査法人と合併し、同日付で名称を至誠清新監査法人に変更しております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,892,815	1,825,516
受取手形及び売掛金	4,259,042	3,902,735
商品及び製品	1,234,103	1,730,025
仕掛品	37,133	63,412
原材料及び貯蔵品	869,914	1,642,377
繰延税金資産	488,363	950,465
その他	367,013	427,742
貸倒引当金	5,490	5,896
流動資産合計	9,142,894	10,536,377
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	8,518,555	8,325,973
土地	13,748,156	13,748,156
その他(純額)	1,807,962	1,887,998
有形固定資産合計	24,074,673	23,962,127
無形固定資産		
その他	246,989	264,906
無形固定資産合計	246,989	264,906
投資その他の資産		
投資有価証券	5,426,733	5,406,862
その他	879,109	844,092
貸倒引当金	3,226	7,977
投資その他の資産合計	6,302,616	6,242,977
固定資産合計	30,624,278	30,470,010
資産合計	39,767,172	41,006,386
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,410,800	1,852,202
短期借入金	2,267,231	5,002,312
未払法人税等	91,746	79,151
賞与引当金	610,196	602,177
資産除去債務	12,000	1,704
その他	2,170,017	1,943,705
流動負債合計	6,561,990	9,481,250
固定負債		
長期借入金	2,119,289	1,948,058
繰延税金負債	1,210,174	1,303,389
退職給付に係る負債	4,673,194	4,492,628
資産除去債務	76,209	77,065
その他	1,540,840	1,471,985
固定負債合計	9,619,705	9,293,124
負債合計	16,181,695	18,774,374

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,469,402	7,469,402
資本剰余金	8,028,457	8,031,923
利益剰余金	6,915,534	5,548,206
自己株式	257,717	234,660
株主資本合計	22,155,676	20,814,871
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,496,083	1,480,738
退職給付に係る調整累計額	66,283	63,596
その他の包括利益累計額合計	1,429,800	1,417,141
純資産合計	23,585,476	22,232,012
負債純資産合計	39,767,172	41,006,386

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	15,486,152	15,938,667
売上原価	9,786,222	9,960,513
売上総利益	5,699,930	5,978,154
販売費及び一般管理費	1 6,966,587	1 7,091,915
営業損失()	1,266,657	1,113,761
営業外収益		
受取利息	1,436	1,347
受取配当金	37,531	41,247
為替差益	26,781	-
その他	18,681	27,556
営業外収益合計	84,428	70,150
営業外費用		
支払利息	10,998	16,516
支払手数料	4,839	3,728
為替差損	-	293
その他	1,086	10,647
営業外費用合計	16,923	31,184
経常損失()	1,199,152	1,074,795
特別損失		
固定資産除却損	9,282	6,902
固定資産売却損	-	2,019
投資有価証券評価損	-	2,091
減損損失	36,215	16,253
本店建替関連損	8,318	-
特別損失合計	53,814	27,266
税金等調整前四半期純損失()	1,252,967	1,102,060
法人税、住民税及び事業税	37,583	35,853
法人税等調整額	850,771	361,915
法人税等合計	813,188	326,062
四半期純損失()	439,779	775,998
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純損失()	439,779	775,998
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	272,467	15,346
退職給付に係る調整額	108,348	2,687
その他の包括利益合計	164,118	12,659
四半期包括利益	275,660	788,657
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	275,660	788,657
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	1,252,967	1,102,060
減価償却費	411,851	524,750
有形固定資産除却損	9,282	6,902
有形固定資産売却損益(は益)	-	2,019
投資有価証券評価損益(は益)	-	2,091
減損損失	36,215	16,253
貸倒引当金の増減額(は減少)	8,422	5,156
賞与引当金の増減額(は減少)	9,598	8,020
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	446,243	176,595
受取利息及び受取配当金	38,967	42,594
支払利息	10,998	16,516
為替差損益(は益)	26,781	293
売上債権の増減額(は増加)	563,426	356,307
たな卸資産の増減額(は増加)	1,013,921	1,294,665
仕入債務の増減額(は減少)	102,253	441,402
未払消費税等の増減額(は減少)	60,820	318,784
役員退職慰労未払金の増減額(は減少)	-	5,091
その他	54,583	102,755
小計	1,761,432	1,678,874
利息及び配当金の受取額	43,299	58,372
利息の支払額	10,722	16,303
法人税等の支払額	39,963	68,963
法人税等の還付額	5,763	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,763,055	1,705,767
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	6,469	-
定期預金の払戻による収入	174,332	255,059
有形固定資産の取得による支出	1,217,298	315,573
無形固定資産の取得による支出	20,172	37,330
投資有価証券の取得による支出	74,028	5,101
投融資による支出	88,923	71,084
投融資の回収による収入	66,937	107,136
資産除去債務の履行による支出	-	12,000
その他	145	480
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,165,476	78,413
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	2,790,000	2,600,000
長期借入れによる収入	400,000	-
長期借入金の返済による支出	36,125	36,149
リース債務の返済による支出	28,674	27,859
自己株式の純増減額(は増加)	25,590	26,523
配当金の支払額	590,072	590,281
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,560,718	1,972,233
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,104	2,293
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	360,709	185,760
現金及び現金同等物の期首残高	1,476,446	1,505,002
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 1,115,738	1 1,690,763

【注記事項】

(会計方針の変更等)

当第2四半期連結累計期間
(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間
(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

当社は、従業員への福利厚生を目的として、従業員持株会に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

(1) 取引の概要

当社は、従業員持株会に対して当社株式を安定的に供給すること及び信託財産の管理により得た収益を従業員へ分配することを通じ、従業員の福利厚生の充実に努めることを目的として、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」(以下、「本制度」といいます。)を導入しております。

本制度は、従業員のインセンティブ・プランの一環として米国で普及している従業員向けの報酬制度のESOP(Employee Stock Ownership Plan)及び平成20年11月17日に経済産業省より公表されました「新たな自社株式保有スキームに関する報告書」等を参考に構築した従業員向けの福利厚生制度であります。

(2) 「従業員等に信託を通じて自社の株式を交付する取引に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第30号平成25年12月25日)を適用しておりますが、従来採用していた方法により会計処理を行っております。

(3) 信託が保有する自社の株式に関する事項

信託における帳簿価額は前連結会計年度214,044千円、当第2四半期連結会計期間189,079千円であります。信託が保有する自社の株式は株主資本において自己株式として計上しております。

期末株式数は前第2四半期連結累計期間570千株、当第2四半期連結累計期間462千株であり、期中平均株式数は、前第2四半期連結累計期間604千株、当第2四半期連結累計期間492千株であります。期末株式数及び期中平均株式数は、1株当たり情報の算出上、控除する自己株式に含めております。

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
荷造運搬費	1,446,822千円	1,459,461千円
役員報酬・従業員給料	2,475,350千円	2,485,036千円
賞与引当金繰入額	365,678千円	367,130千円
退職給付費用	37,497千円	141,112千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	1,498,919千円	1,825,516千円
預入期間が3か月を超える定期預金	383,181千円	134,754千円
現金及び現金同等物	1,115,738千円	1,690,763千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	590,291	10.00	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」導入において設定した、従業員持株会信託口に対する配当金を含めておりません。これは、従業員持株会信託口が保有する当社株式を自己株式と認識しているためであります。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月26日 定時株主総会	普通株式	591,331	10.00	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」導入において設定した、従業員持株会信託口に対する配当金を含めておりません。これは、従業員持株会信託口が保有する当社株式を自己株式と認識しているためであります。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	菓子事業	食品事業	飲食事業	不動産 賃貸事業	その他の 事業(注)	
売上高						
外部顧客への売上高	9,770,252	3,489,759	1,389,291	423,741	413,110	15,486,152
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	94,268	-	94,268
計	9,770,252	3,489,759	1,389,291	518,008	413,110	15,580,420
セグメント利益 又は損失()	559,279	197,954	77,485	187,064	21,277	230,468

(注) 報告セグメントの「その他の事業」は、連結子会社が営むスポーツクラブの営業及び保険代理業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額
の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	230,468
全社費用(注)	1,036,190
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失()	1,266,657

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食事業」セグメントにおいて、当初想定していた収益が見込めないため、一部の店舗において減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、前第2四半期連結累計期間においては36,215千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計
	菓子事業	食品事業	飲食事業	不動産 賃貸事業	その他の 事業(注)	
売上高						
外部顧客への売上高	9,763,703	3,483,533	1,585,832	668,858	436,741	15,938,667
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	81,856	-	81,856
計	9,763,703	3,483,533	1,585,832	750,714	436,741	16,020,523
セグメント利益 又は損失()	584,101	199,773	40,955	250,461	35,463	139,359

(注) 報告セグメントの「その他の事業」は、連結子会社が営むスポーツクラブの営業及び保険代理業であります。

2 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利 益	金 額
報告セグメント計	139,359
全社費用(注)	974,402
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失()	1,113,761

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「飲食事業」セグメントにおいて、当初想定していた収益が見込めない一部の店舗及び「菓子事業」セグメントにおいて、営業所の移転確定に伴う一部設備撤去による減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては16,253千円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	7円45銭	13円12銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	439,779	775,998
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額()(千円)	439,779	775,998
普通株式の期中平均株式数(株)	59,060,589	59,162,007

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 2 「普通株式の期中平均株式数」については、従業員持株会信託口が所有する当社株式を四半期連結財務諸表において自己株式として会計処理をしているため、算定上、当該株式数を控除しております。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月10日

株式会社中村屋
取締役会 御中

至誠清新監査法人

代表社員
業務執行社員 公認会計士 中 根 堅 次 郎 印

代表社員
業務執行社員 公認会計士 高 砂 晋 平 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社中村屋の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社中村屋及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。